

指導マニュアル 2: 経済安全保障のジレンマ

～「利益」と「安全」の相反する論理を整理する～

1. 指導の核心(コンセプト)

「貿易が盛んになれば平和になる」という十九世紀以来の楽観主義を、現代の「経済安保」の視点で批判的に検討させます。高坂正堯の「利益の体系」と「力の体系」の衝突を軸に論理を組み立てさせます。

2. 重点指導ポイント

A. 相互依存の「武器化」

- 解説の急所: 仲が良い(依存している)からこそ、それを人質に取られた時に弱くなるという「脆弱性」を理解させます。「武器化された相互依存」という概念を教えましょう。

B. デリスキングとデカップリングの違い

- 解説の急所: 完全に縁を切る(デカップリング)のは「利益」を損なうため不可能。リスクを管理しながら付き合う(デリスキング)という「管理された緊張」の視点を身につけさせます。

3. 生徒を伸ばす問いかけ

- 「安くて便利な製品を特定の国から買い続けることは、平和への近道かな、それともリスクかな？」
- 「自分の生存を握っている相手と、対等な話し合いはできると思う？」

4. 添削の際の NG ワード・NG 論理

- ✕「悪い国とは取引をやめるべきだ」→ 自国の利益を無視した極論。
- ✕「経済が結びついていれば絶対に戦争は起きない」→ 歴史の忘却(第一次大戦前の状況と同じ)。
- ○「経済合理性と政治論理の相克をいかに調整するか」という課題設定を推奨。